

田中晴子

心の火は操れない

平凡な毎日を過ごしているときは
心に火が灯らないと嘆いていた
苦しくて何もかも投げ出したくなったとき
火が灯っていたことに気づく
消したくても消えてくれない希望の火

自分の足で立つ

自分を照らす火を
自ら灯した
恐れも 甘えも
消えていた